

旧徳中
城南高

同窓会々報

第98号

発行所: 旧徳中・城南高等学校同窓会事務局 徳島市城南町2-2-88 TEL088 (652) 0084

印刷: 株式会社サラト

2025(令和7)年母校は創立150周年を迎えます

会長挨拶

同窓会会長 酒池 由幸 (昭和50年卒)



平素は、同窓会活動に、格別のご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、県下で最も古い歴史と伝統を誇る城南高校は、来年創立150周年の記念すべき年を迎えます。

そして、先日、城南高校や松柏会、後援会とともに、「城南高校150周年記念事業実行委員会」を立ち上げ、実行委員長に就任いたしました。

また、委員会には、記念式典・講演、記念誌、記念事業・広報、寄付金などの各部会を設置し、具体的な内容について検討を進めることとしました。

記念式典では、生徒の主体的な企画・運営、記念事業では、生徒の夢を叶えるための事業の創出、そして、こうした事業を展開することにより、同窓生や在校生の一体感や母校愛の醸成に繋がっていくことを基本コンセプトにしていければと考えております。

今後とも、城南高校のさらなる発展に貢献できるように、同窓会としても、全力を傾注してまいりますので、引き続き、皆様方のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

令和6年度 同窓会総会・懇親会のご案内

○日 時: 令和6年8月11日(日) 午前10時30分~(開場10時)

○場 所: 阿波観光ホテル 徳島市一番町3-16-3 ☎088-622-5161

○会 費: 昭和卒/10,000円 平成卒/6,000円 令和卒/3,000円

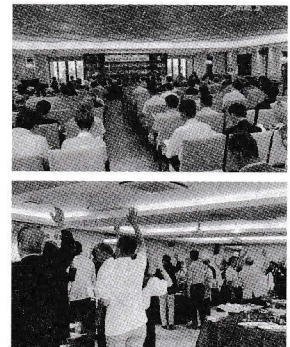
※卒業年元号により、金額が異なります。世代を超えて多くの同窓生の集いとなることを願い、若い世代にもご出席いただけるように、先輩方のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

○講演会: テーマ「私と地域経済活性化」

講 師: 橋本圭一郎様 (昭和45年卒)

プロフィール

1951年徳島市生まれ。1970年徳島県立城南高等学校卒業、1974年一橋大学商学部卒業、同年(株)三菱銀行(現:三菱UFJ銀行)入行。ニューヨークやフランクフルトでの海外勤務を経験し、国際業務部長を務めた。その後、三菱自動車工業(株)代表取締役執行副社長兼CFO、首都高速道路(株)代表取締役会長兼社長、公益社団法人経済同友会副代表理事・専務理事等を歴任。現在はインフロニア・ホールディングス(株)取締役会議長、(株)コンコルディア・フィナンシャルグループ社外監査役、(株)ファンケル社外取締役を担っている。また、2016年10月から東京徳島県人会会長。17年8月から20年10月まで全国徳島県人会連合会会長を務めた。これまで、我が国を代表する国際経済人として活躍され、役職も枚挙にいとまがない。



○ご参加のご連絡は、8月2日までに下記宛てにご連絡をお願いいたします。

旧徳中・城南高等学校同窓会事務局

TEL 088-652-0084

FAX 088-656-0484

Mail jonan.dousoukai@gmail.com

※ご連絡時は、お名前(旧姓もお願いします)・卒業年・ご連絡先をお伝えください。

昨年、4年ぶりの開催となった同窓会に参加させていただきました。様々な世代の方々との交流を深める中、特に歳の近い同窓生と、当時の先生方や学校行事、部活動の話などに華が咲き、盛り上がりの懇親会となりました。私たちの誇りである城南高校も、来年度は大きな節目となる創立150周年を迎えます。この橋渡しとなる今回の同窓会・懇親会の幹事となり、大役でありながらも光栄なことだと感じています。この会を機会として皆様方と一層の結束を深め、思い出とともにこれからの母校についても語り合えるような時間になれば幸いです。幹事・スタッフ一同、精一杯努めさせていただきますので、皆様お誘い合わせの上でご参加いただきますようお願い申し上げます。

令和6年度同窓会代表幹事 秋月優希 (平成6年卒)

退任にあたって みなみ 前校長 三井 敏之



退任にあたりまして、同窓会の皆様へ一言挨拶を申し上げます。

このたび、30年以上にわたる教員生活を、県内で最も歴史と伝統のある城南高校で終えることとなりました。教員生活の最後をこの素晴らしい学校で終えられた幸運に心より感謝しております。在任中も何度となく話したのですが、「自主自立」「文武両道」の精神をここまで体現している学校を私は知りません。生徒たちの努力には本当に頭が下がります。県内トップクラスの学力を維持しながら、各部活動では多くの部が全国大会の常連となっているような公立学校は、そうそうあるものではありません。

城南高校で教鞭を執られている先生方についても、城南高校をより素晴らしい学校にしようという意欲に溢れた方ばかりでした。何か新しい取り組みをしてみようと提案したときも、否定から入る職員はおらず、成すためには何が必要かという議論から始まるような、意欲に溢れた先生方に囲まれていました。幸せな校長生活であったと思っています。

また、同窓会や後援会、松柏会といった、卒業生や保護者の組織が活発に活動していて、生徒たちの学びを陰に日向に支えているという環境も、他の学校にはない大変恵まれたものだと感じていました。実際に、在任中には、渦の音クラブ（関東支部）や城南FS会（近畿支部）の同窓会にも参加させていただきましたが、同窓生の方々とお目にかかってお話を伺うたびに、溢れんばかりの母校愛を感じていました。

私が在任中の2年間は、まさに新型コロナウイルス感染症による閉塞感漂う時代から、コロナ後の新しい時代への大きな転換時期でありましたが、それまで、3年間にわたって中止したり縮小して実施していた各種学校行事を、積極的にコロナ前の状態に戻して実施していく中で、同窓会の皆様には様々に御支援をいただき、助けていただきました。おかげさまで、生徒たちの笑顔が輝く場面に何度も立ち会うことができました。

特に、私の在任中、学校と同窓会を繋ぐために尽力していただいた歴代の事務局長様には感謝の言葉しかありません。船越隆子様、綱島久美子様、この場を借りて心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

新型コロナウイルスの出現によってもたらされた時代の大きな転換点に、母の母校でもある城南高校の校長として立ち会うことができたことに身の幸せを感じながら、今後も城南高校のさらなる飛躍を見守り続けていきたいと思っています。

最後になりましたが、同窓会並びに後援会の皆様、また教職員の皆様、松柏会の皆様の御健勝をお祈り申し上げるとともに、令和7年には創立150周年を迎える城南高校の、今後ますますの発展を祈念申し上げて退任の挨拶といたします。ありがとうございました。

着任にあたって 新校長 佐山 哲雄



本年度より校長として赴任しました佐山と申します。城南高校での勤務が初めてであるとともに、城南高校が県内で最も長い歴史と伝統を誇る学校でもあることから、身の引き締まる思いを感じています。私は、教職に就いて以降、城東高校・城北高校、県教育委員会事務局などの勤務を経て、昨

年度までの2年間は、板野高校で校長を務めてまいりました。心機一転、歴史と伝統に輝く城南高校で、本県教育の基本方針である「個性と国際性に富み、夢と志あふれる人財の育成」に尽力したいと考えておりますので、同窓会の皆様、どうぞよろしくお願いたします。

城南高校は、令和7年度に創立150周年を迎えます。本年度より「旧徳中・城南高等学校創立150周年記念事業実行委員会」を立ち上げ、大きな節目を迎えるための準備を進めているところです。同窓会の皆様からのご支援とご協力をお願いいたします。また、城南高校は、様々な分野において顕著な実績をあげるなど、躍進を続けています。「未来を切り拓くイノベーター（革新者）」として必要とされる力の育成」というスクールミッションを果たすべく、「自主自立」の校風や「文武両道」の精神のもと、学習活動や学校行事、部活動などの指導に教職員が一丸となって取り組んでいます。

校長室には、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定書と県高校総合体育大会での4本の優勝旗があります。文化部においても数多くの素晴らしい成果を残しており、まさに「自主自立」の校風のもとで培われた「文武両道」の精神が体現されていると感じています。また、伝統的な学校行事であるファイヤーstorm（FS）についても脈々と受け継がれています。

現在、南海トラフ巨大地震や地球温暖化に伴う自然災害が懸念されており、更なる対応が喫緊の課題となっています。また、少子高齢化、高度情報化、グローバル化に加え、国際的な戦争や紛争など、私たちを取り巻く社会は予想もつかないほど急速に変化しており、困難な課題が山積しています。激変する社会を生き抜く力となる、多様で複雑な課題に対して「自ら考える力」と「他者と協働する力」の育成を目指した教育活動を展開していきたいと考えております。

本年度のスタートとなる第1学期の始業式では、「志（こころざし）」をテーマとして、「志」を持つことの大切さや「志」を実現するために必要なことについて話をしました。生徒には、成し遂げたいことを「志」として持ち、理想とする自分を毎日強く思い、そして必要となる行動を続け、「志」に向かって歩みを止めない高校生活にしてもらいたいと思っています。更には「志」の実現を通して、城南高校の新たな歴史と伝統を築いてもらいたいと思っています。

最後になりましたが、同窓会の皆様からの引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げます、挨拶といたします。

令和6年同窓会総会幹事学年からのメッセージ (平成6年卒)

秋月 優希



現在、私は高校教員として教壇に立っていますが、時々、生徒に「何で先生になったん？」という類の質問を受けます。答えはいつも「学校という場所が好きだからor楽しかったから」と答えます。そんな楽しかった城南高校で吹奏楽部に所属していました。高校を卒業した年の夏、顧問の井上先生の声かけで城南吹奏楽部OBが立ち上げた吹奏楽団アババイ(平成6年設立)で現在も活動を続けていて、団長に就任して今年で23年目になります。19年前の創立130周年の開校記念日に、記念演奏をさせていただいた際には、歳の離れた後輩たちの前で

校歌を久しぶりに吹いて嬉しかったことを思い出します。

また、思い出と言えば、そこはなんと言ってもやはりFSでしょう。城南高校に勤務経験がある教員がFSの存在意義や生徒たちの活動の様子を「あの生徒たちのパワーはすごい」と話をしているのを聞く度に、城南高校OBとしての喜びを感じています。

来年は、いよいよ旧制徳島中・城南高校創立150周年の大きな節目を迎えます。この伝統ある城南高校を作り上げてきた先輩方、伝統を受け継いできた後輩たちと共に、同窓会の一員として語ることができる場が今年もお盆の頃に開催されます。昨年の懇親会の際に、今年度の幹事学年代表として挨拶をさせていただきましたが、次の懇親会最後に行くと宣言した「三・三・七・一・一・一拍子」を覚えていますか？

妹尾 英光



同窓会の存在を知らず、たまたま昨年の総会に会社の上司からのお誘いで参加すると、次年度まさかの幹事年度学年ということで当日、参加されていた皆様にご紹介いただくとともにこの原稿を書く機会を頂戴しました。

卒業して30年経ち50才に近い紛れもないおじさんとなりました。といっても自分自身、当時から1ミリたりとも成長している実感もなく、気分的にも考え方的にも当時とあんまり変わらないあーというのが私自身の実感です。

当時、人見知りでとにかく集団で行動することが苦手だった性格が災いし、身勝手な行動でどちらかという団結力のあったク

ラスの皆さんに迷惑をかけたことが思い出されます。

そんな私でも受け入れ、親しくしていただいた数人の友人たちや、「とにかくあなたはいいなさい」と無理やり合唱部に引きこんでいただいた故井上先生がいなければもっと灰色の高校生活になっていただろうと思います。

現在、私は金融機関に勤務し、同じ職場で30名近い同僚と仕事をさせてもらっています。高校時代の罪滅ぼし?のためにも「みんなで一緒に頑張りましょう!」と声を上げ、苦手なリーダーシップをとりつつ徳島県経済に少しでも貢献すべく日々奮闘しています。コロナ禍もあり、なかなか集まれる機会もありませんので、ぜひ皆さんとこの夏の同窓会でお会いできることを願い、筆をおかせていただきます。

中田 浩資



城南高校時代、文系専攻の諸先輩方が選ぶ進学先は、経済学部や法学部が圧倒的マジョリティーでしたが、先生方と相談を重ね、僕は外国語学部中国語学科に進学しました。思えばそれがその後の人生を決めるターニングポイントだったのかもしれませんが。大学1年次が終わる春休みに人生初の海外渡航先として選んだのも中国。一眼レフカメラを片手に、

大阪から船で2泊3日かけて上海に降り立ちました。偽札が横行し、ストリートチルドレンがたむろする大国に強烈なカルチャーショックを受けながら1ヶ月周遊するうちに、中国の魅力と写真

の面白さに取り憑かれました。2年後には北京に留学。大学卒業後はいったん就職するも、くすぶっていたカメラマンへの道を諦めきれず、26歳で上京し、フリーランスのフォトグラファーとして独立。

海外をフィールドに活動するフォトグラファーにとってコロナ騒動は死活問題でした。高校時代の親友や家族に助けられ、なんとか廃業は免れましたが、突然の不可抗力によりライフワークが立ち行かなくなるような世界に生きているという現実を思い知りました。スマートフォンの画像レベルが格段に向上し、動画媒体が幅を効かせるネット社会において、フォトグラファーは斜陽の職業になりつつあります。逆境に負けずこれからも写真を撮り続け、僕の作品がどこかでみなさまの目に留まれば幸いです。

松島真由美 (旧姓 吉成)



城南高校を卒業して早や30年。年月が過ぎてゆくスピードに恐怖すら感じる今日この頃です。

高校時代はバスケットボール部に所属し、毎日練習に汗を流していました。といっても、現在の城南高校女子バスケットボール部のようなめざましい活躍ぶりとは違い、一勝できれば大喜びという弱小チームでした。けれど、「とりあえず一勝」とい

うクラーク博士も驚くような大志を抱いて、努力した思い出は私にとってかけがえのないものです。もしかしたらの話ですが、バスケの練習よりも、練習前後に催される駄菓子屋かどやのおばあちゃんへの推し活や、部室での熱いディスカッションの方にウエイトを置いたことが、勝てなかった原因の一つなのかも知れません。もしかしたらですけど。

今、高校時代の自分を思い出すと、毎日友達と集まり、笑ったり泣いたり、また笑ったりと忙しい青春を過ごしていたように思

います。

現在は徳島市内にある法律事務所で事務局長として勤務しています。法律というと、一見とっつきにくそうですが、私たちの暮らしや人生に密接に関係している面白い仕事で、日々楽しみながら働いております。また、私の城南愛による洗脳のおかげで、娘二人とも城南高校でお世話になっております。長女は、コロナ禍真っ最中に高校生活を過ごし、FSの炎をただ座って見ているだけの姿には、親として卒業生として、何とも言えない気持ちになりました。次女は今年受験生！城南高校での最後の夏を過ごしています。

偶然にも、昨夏、高校卒業以来の先輩方と部活での同窓会があり、昔話に花を咲かせたところでした。今年と同窓会の幹事学年ということで、もっと多くの同級生、先輩、後輩の皆様とお会いして、さらに大輪の花を咲かせたいと考えております。

見た目は少しだけ変わっていても、友達の顔を見れば、高校生の頃の自分にすぐに戻れるはずですよ。皆様にお会いできることをとても楽しみにしています。

森 公志



私は神山町出身で、通学距離が遠く高校3年間下宿生活でした。

そのおかげで、3年間ハンドボール部に取り組むことができました。自宅からの通学ではこの経験はできなかったと思います。

ハンドボール部は当時県内で7校しかなく、1回か2回勝てば四国大会へ進めました。

2年時の四国大会では、翌年のインターハイ3位となる新居浜工業に大差で負けたことも忘れられ

ない思い出です。

小学校では11人、中学校では35人のクラスでしたから、高校でのクラス替えは新鮮でした。

中学時代からの同級生もいましたが、新たな友人とも出会い充実した高校生活を過ごすことができました。

今は徳島市在住でIT会社につとめています。

地元にいると、子供を連れて出かけたりといった場で思いがけず同級生や先輩後輩と再会することがありとてもうれしい気持ちになります。

今後もこの繋がりを大切にしたいと思います。皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

卒業生からのエッセイ

さよーならまたいつか！

学生寮寮長 (元共同通信記者) 宮城 孝治

米津玄師の「さよーならまたいつか!」、あの歌が好きだ。NHK朝ドラの主題歌である。歌詞に込められた深い意味は分からないが、タイトルは自分の人生とも共鳴する。「またいつか」と言って別れ、不義理を重ねて69歳になった。それでも、人並みに息をしている。

転勤人生だ。全都道府県に仕事の思い出がある。噴火

間もない三宅島、発災直後の神戸や仙台で非常時を体験した。オウム事件やイラク戦争、福島原発事故では、取材か安全かの瀬戸際に立った。皇室取材で歴史の節目に立ち会い、海外12カ国に出張した。

振り返れば、平均3年ほどで引っ越ししたり、職場を変えたりしている。出会いと別れは数えきれず、古い記

憶は上書きされていった。長男は結婚式の新郎挨拶で「昔は父を恨んでいた」と言い放った。彼も友だちと多くの別れを強いられた。同情はするが、息をしているだけでありがたいと思え、と言いたくなる。



天皇即位で初のテレビ解説。孫が応援してくれました。

同窓会報の原稿なので、城南にまつわる話をしなければならぬ。記者稼業にとって出身地や母校は人脈作りの重要アイテムだった。取材は知らない者同士で始まる。共通項が見つかり、間柄はぐっと近くなる。

私は生まれも育ちも旧池田町だ。総合選抜制度になる前は、県全域から生徒が集まった。父が徳島駅に勤めていた関係で城南に入った。池田、城南、進学した一橋大が自己アピールの三大アイテムとなった。「徳島の出身です」と話しかける。「徳島は、どこですか」と聞き返す人はまず同県人だ。その一点だけで会話の糸口や接ぎ穂になってくれた。

池田というブランドには、とても助けられた。蔦文也先生が率いた池高野球部のおかげだ。「さわやかイレブン」やら「やまびこ打線」やらで、全国的に知名度が高まった。イレブンの大半は池田中野球部の後輩だったので、他人事ながら誇らしかった。池田高の出身？と聞かれると、「野球部に入るのが嫌で徳島市内の学校に行つて」と答えていた。部員不足に悩んでいた蔦先生から「池高に来い」と言われ、断った記憶がある。当時は鉄拳も振るう怖い大人に見えた。

城南ブランドは、東京の現場で忘れ得ぬ出会いをもたらした。昭和、平成をまたいで天皇の侍従長を務めた山本悟さんはかつて徳島の副知事。息子さんは一時期城南に通っていた。宮内庁で出会った警察官僚の先輩には、

胸に深く刻み込んだ恩義がある。

同世代以上の取材先は「徳島と言えば城南」と反応した。霞ヶ関・大手町界隈だけでなく、一橋のキャンパスや共同通信の職場でも、それが定番だった。いつからか私も「城東？市高？それとも文理？」と尋ねるようになり、やがて県人との遭遇自体が減っていった。総合選抜制に言いたいことはあったが、議論すべき時期は遥かに過ぎてしまった。

昔話はこれぐらいにしたい。現在の主たる仕事は、都心にある学生寮の管理運営責任者だ。寮生からは「寮長」と呼ばれている。地方出身の若者の成長を見守り、生活環境を安全に保つことが役割だ。彼らが嫌うのは年長者の昔話と自慢話。不断のリフレッシュが彼らと付き合う要諦となる。

経済難の若者の就学を支援する寮である。公益財団が補助するので、月3万円を払えば食と住を賄える。北海道から沖縄まで集まる中、徳島出身者は何年もない。「東京はカネがかかる」とあきらめているなら、それは親世代の思い込みだ。少し調べれば、格安の寮の存在や私立大の支援制度の充実ぶりに驚く。意欲ある若者に、今ほど扉が開かれた時代はない。

今春も卒寮生の門出を見送った。故郷に戻り就職する者もいる。さよーならまたいつか！。入れ替わりに、新しい顔ぶれを迎え入れた。切磋琢磨は若者に最も必要なことだと思う。出会いと別れが人生だ。



寮の学生と山登りでヘトヘトに。後方遠くに谷川連峰。

学年同窓会開催報告

コロナ明けの85才同窓会 (通称32会)

幹事代表 美馬 光夫

我々昭和32年(1957年)卒業生は家庭科を含め約300名でした。「もはや戦後ではない」と当時の経済白書で述べている通り、少しずつ豊かさを感じ始めた時代でした。その後、高度経済成長、バブル崩壊を経験し、お互い還暦を迎え学年全体の同窓会を行うようになりました。

最初は5年毎に70才後半からは2年毎に開催してきましたが、新型コロナ発生のため中断していました。しかし昨年11月に5年振りに再開を催し、190名に案内を出したところ39名の参加を得ました。出席者は100名前後から減少気味ですが、本人の健康状態や配偶者の介護等で仕方ない現状です。今回は翌日のゴルフコンペやバスでの観光を行わず、昼間の会合に変更しましたが、3次会まで粘る者もいて再会を喜び合いました。

さてコロナ発生以前は、関東在住者で毎年4月30～40名で同窓会を行っており、関西地区ではゴルフコンペを行っていました。今回の同窓会を機にこれらを復活して、お互い交流を深めればと願っております。



現在、同窓会の世話人で毎月懇親会を開催しており、又毎週月曜日は卓球で汗を流しています。10月には城南OBで100名を超える(渦の音)カップのゴルフコンペにも積極的に参加して過去団体優勝、個人優勝の戦績を残しています。残り少ない人生を明るく、たくましく、前向きで頑張っていきたいと思っております。

世話人代表 三谷真喜夫、秋田義弘、郡捷夫

「城南39会同窓会」開催の記

清原 真弓

令和5年、9月9日(土)、ホテル「徳島グランドパレス」で開催された同窓会は、世界中を席卷したコロナ禍で、数々の会合への制約など、私達の社会行動の根幹まで一変させた4年間の後、ようやくその終焉で、開催される運びとなったものでした。

昭和39年の卒業生総数は343名で、惜しくも物故者となられた畏友は、59名です。

当日、各地から、同窓会会場に馳せ参じた人数、61名。この数字は、発起人達の予想を遥かに超えた歓喜の数となりました。

久々の顔合わせに、破顔一笑、老顔が一瞬にして、60余年前の、木造校舎を闊歩する詰衿姿の高校生集団に、タイムスリップしてゆきました。

やがて会場は、笑い、歌い、飲み、食べ、喋りの喧騒の中で、雑多な情報が飛び交う、熱気の坩堝と化していました。

時には、思いがけない級友の訃報に、暫し絶句し、話題の出口を探りながら、それでもお互い顔をあげ、心で涙を共有しながら、歳月の重みを噛みしめました。

私達は「同窓会」という名の、永遠の「摇篮」の中で、至福の一時を味わいながら、同時に、老いた友人達の容姿の中に、自分自身の姿をも重ねていたのでした。今、生きていることの奇跡、そして生かされていることの恩寵をも考えます。

そして今回、この同窓会で特筆すべき最大の置土産は「城南富士八合目」の発刊が提案されたことでした。



思えば、「城南富士六合目」から、20年という月日が経っていました。当時、原稿依頼文の発送から、編集、校正、発刊まで1年半を要しました。ところが今回、なんと4ヶ月で完成したのです。

著しく進歩した電子機器の恩恵と同時に、編集担当者の卓越した編集経験がありました。また、発刊の意義を理解し、同意し、臨機応変に作業をサポートしてくれた級友、知人の皆さん方。改めて「城南39会」の結束力の強さと凛々しさを実感しました。

まさに、記憶に残る同窓会となりました。
素晴らしい級友達に、乾杯、です。

昭和47年卒業生同窓会

出口 健一

前回の同窓会から5年後、同窓会を計画し始めた矢先、コロナ禍に見舞われ、多人数での会食を伴う同窓会を開催する状況ではなくなりました。しかし、昨年5月、コロナも第5類感染症に移行され日常の生活に戻ってきたので、開催に向けて準備委員会を立ち上げました。案内状の発送などの準備は、「城南会」と称して毎月会食している面々が担当し、司会進行など当日の運営は、毎年女子会をしている「乙女の会」の皆さんが担ってくれました。



延び延びになっていた昭和47年卒業生の同窓会を令和5年11月18日グランドパレスにおいてやっと開催することができました。ちょうど古希という節目の年に当たり、全国各地から76名の参加者がありました。中には高校卒業以来初めて同窓会に参加したという人もいました。50年以上を過ぎても、女性陣は女子高生時代の面影が残っているので、なんとなく〇〇さんと自然に名前が出てきますが、男性陣は立派なひげを蓄えた仙人のような人や頭髪の様子をはじめ体形が全く変わり高校時代とは別人のような人も見受けられましたが、姿かたちは違えども、中身は高校生時代そのままでした。

最初に志半ばで亡くなられた物故者に黙とうを捧げました。卒業生399名のうち、既に30名がお亡くなりになっていました。名前を読み上げるたびに、正面のスクリーンに、卒業アルバムの写真が映し出され故人を偲びました。特に前回の同窓会以降に亡くなられた7名の中には、学年でいつも1、2位を争っていた成績優秀者や、人一倍健康に留意していたはずの医師が含まれており、残念でなりません。

学年代表の挨拶の後、会食になりました。最初の数分間はおとなしくテーブルについて食事をしていましたが、そのう

ち同じクラスの仲間や部活動の仲間同士集まり、会場にはいくつもの輪ができました。卒業後、それぞれの道を歩んだ旧友とは、時間が経っても色褪せることのない当時の思い出話や近況報告など話は尽きることなく笑顔があふれていました。会場のスクリーンには卒業アルバムがスライドショーで映し出され、バックグラウンドに高校生当時の歌が流れ、当時は懐古することができました。青春を爆発させたファイヤーストームの思い出、遠距離通学や初めて親元をはなれた下宿生活での苦労話など語り合いました。スクリーンに映し出される恩師の姿を見て、英語の中西先生に当てられないようにドキドキしながら授業を受けていたとか、今なら体罰と言われかねない笠井先生のハードな体育の授業、教室に響き渡る天野先生の謡に聞きほれたことなど、その当時の授業風景について、大いに盛り上がりました。

時の経つのも忘れての楽しいひとときを過ごすことができ、3時間の予定時間があっという間に終わりました。最後に全員で声高らかに校歌を斉唱し、2年後の次回も元気で会おうと誓い散会しました。名残は尽きず、多くが気の合う仲間同士、二次会に夜の街に消えて行きました。

平成2年卒業生同窓会

代表幹事 金森弘一郎

城南高校同窓会総会・懇親会が4年ぶりに開催されることを知り、同日に平成2年卒業生の学年同窓会を開催することを思いつきました。本来であれば、4年前に我々の学年が同窓会総会・懇親会の幹事であり、同級生有志が集まり、準備を進めていたところ、コロナウィルス感染症の影響で同窓会総会・懇親会が中止となってしまっていたからです。

学年全体の同窓会は卒業20年後の38歳のころに一度行って以来であり、今回は14年ぶりの開催となりました。まずはLINEグループを作成し、参加を呼びかけたところ、いとも簡単に100名ほどのグループができました。LINEはとても簡単で便利。同窓会開催前から同級



生の紹介や情報交換の場となり、同窓会開催当日の服装の話などでも盛り上がりました。後に当日の写真を載せることで、参加者はもちろん、参加できなかった方にも写真を見ていただくことができました。事前の準備会には協力的なメンバーが集まり、役割分担を決め、それぞれが準備を行い、当日を迎えました。私を含め半数の方は同窓会総会・懇親会に参加し、その後に同会場にて、惜しまれつつ次のステージへと旅立った4名は写真での参加となり、総勢50名の学年同窓会となりました。

久しぶりの再会なので、名前がわかるようにネームシールを胸に張り付け、12クラスを6テーブルに分け、まずは同じクラスだった同級生で昔話を花を咲かせました。それから高校当時の写真を集めたスライドショーを上映しました。写真が変わるたびに歓声上がり、大いに盛り上がりました。その後、料理もお酒もすすみ、緊張がほぐれてきたころに、ステージで一人ずつ自己紹介と近況の報告をしてもらいました。それぞれの人生の歩みを知ることができ、なかには子どもも城南高校を卒業していたり、在校している方もいました。

せっかく多くの同級生が集まったのでいろんな方と

話ができるように、今度はテーブルを誕生月に分けて、席替えを行いました。中には卒業以来はじめて話をする同級生もいて大変よろこんでいただきました。

懐かしく、楽しい時間はあっという間に過ぎていき、終盤を迎えたころには、早くも次回開催に向けての話が出たほどでした。その場で次回幹事を募集したところ、快く引き受けてくれる方がおり、宴もたけなわの中、その方の一本締めにて一旦お開きとなりました。

参加していただいた方々からは「参加してとても楽しかった」や「開催してくれてありがとう」など、幹事として大変うれしい言葉をかけていただきました。久しぶりの同窓会はあっという間に会場全体が高校時代にもどったようで、みんなの笑い声や歓声に包まれ、学年同窓会を開催して本当に良かったと感じました。

私は次回幹事にバトンを渡し、その後、参加者ほとんど全員参加の3次会の会場へ向かったことは言うまでもありません。

平成5年卒業生同窓会

代表幹事 亀代 尚史

城南高校を平成5年卒業の亀代と申します。城南高校同窓の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年8月13日、徳島市のパークウエストーンにて「令和5年度同窓会総会・懇親会」が開催されました。平成5年卒業生が幹事学年となり、私が代表幹事を務めさせていただきました。最初お話をいただいたときは「代表幹事か、大変だな…」と後ろ向きな気持ちでございましたが、10名以上の頼れる仲間たちが協力してくれることとなり、また同窓会事務局長の綱島さんの強力なサポートのもと、無事本番を迎えることができました。

総会後に行われた懇親会で一番盛り上がったのは、幹事メンバーの阿部さんと玉村さんが用意してくれた城南高校にまつわるクイズ大会。あえて卒業年度が異なる方たちで複数のチームを作り、チーム対抗戦で進めましたが、各チーム一致団結してクイズに答えてくださり、笑いあり、笑いあり、さらに笑いありで、はじめましての方とも自然に打ち解けることができました。幹事学年はもちろん、すべてのご参加者の心に残る懇親会になったのではないかと思います。最初後ろ向きな気持ちだった私ですが、今では「代表幹事を引き受けて本当によかった！」と心の底から思っております。毎年、幹事学年は変わっていきますが、これから幹事学年となる皆様は、ぜひ前向きに引き受けてくださいね(笑)。「やってよかった！」と思うこと間違いなしです。



また、このたび「令和5年度同窓会総会・懇親会」に参加したことで、城南サッカー部の大先輩ともお会いすることができました(私もサッカー部でした)。ゴールデンウィークに毎年開催されているOB会にお誘いいただくなど、新しい出会いがあったことも喜びの一つです(誠に残念ながら、仕事の関係でOB会に参加することはできませんでしたが…)。やっぱり、同窓会って良いものですね。

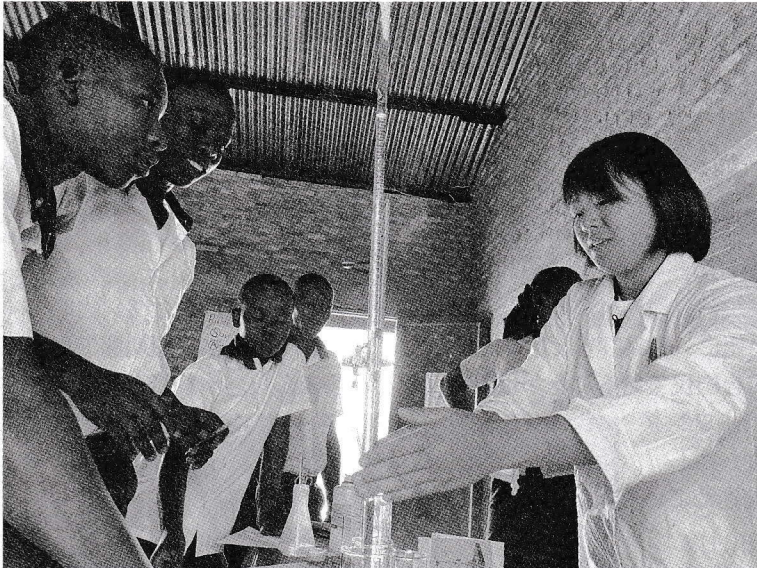
さて、ここからは、平成5年卒業生の皆様へのご案内です。今回集まった幹事メンバーで話をし、今年同窓会を開催することに致しました。令和6年度は私たちの学年が50歳を迎える記念すべき年です。そこで、祝50歳!平成5年卒・同窓会を令和6年12月29日(日)に行います。場所は同じくパークウエストーンで、開催時間は15時~18時を予定しています。この会報をご覧になった平成5年卒業生の皆様、ぜひぜひご参加くださいね!

学校誌「渦の音」先輩寄稿

あの時のひとこと ～虫の目・鳥の目・魚の目～

平成22年卒業・応用数理科2期生

西角 祐香



化学分野・中和滴定について、実習教室で実験。

Muraho！（キニアルワンダ語：初めまして。お久しぶりです。）

今年度、同窓会々報に寄稿させていただいたご縁で、現役高校生のみなさんにもお話しする機会をいただきました。徳島県公立中学校の理科教員として勤務した後、2022年8月からJICA海外協力隊（理科教育）として、アフリカ大陸のほぼ中央に位置するルワンダ共和国に派遣されています。

みなさんの倍近く生きているとはいえ、先輩寄稿を任せていただくには力不足を感じています。そこで、これまでに出会った方々の力を借りて、岐路となった「あの時のひとこと（と当時の年齢）」を紹介したいと思います。

短編形式にしているのですが、どこから読んでくださっても構いません。見出しを読んでいただいて、気になる一言が見つかったら、その部分だけでも読んでみてください。全部読んでくださったなら、筆者冥利に尽きます。それでは、どうぞ！

When I was young, I'd listen to the radio.（5歳）

これは、アメリカの音楽ユニットThe Carpentersが1973年に発表したYesterday Once Moreの歌の出しです。父が運転する車のカセットテープ（世代間ギャップがありますね）に入っていて、幼稚園へ行くときによくかけてくれていました。日本語とまったく異なる発音とやわらかい音色がとても好きでした。頭の中ではそのまま再生できるのに、歌ってみると全然似ていない！このフレーズだけ、こっそり何度も練習しました。この曲が、英語や海外に興味をもつきっかけになりました。

甘くないバナナを食べるんだよ。（11歳）

これは、小学校の総合的な学習の時間の時に、海外協力隊経験者の先生がおっしゃった一言です。

当時は、「フルハウス」などのNHK海外ドラマや金曜ロードショー、土曜プレミアム、日曜洋画劇場など、毎日のように「外国」文化に触れられるテレビ番組があり、興味津々で観ていました。

ある日、その先生が教室に来て、「僕はパプアニューギニアで理科の先生をしていました。今日は、『外国』のお話をします。」と言って、授業をしてくださったのです。見せてくださった写真には、上半身裸で、葉っぱや藁でできたスカートを腰に巻いた男性が写っていました。「フルハウス」の登場人物を思い浮かべていた私は「思っていた『外国』とちがう！」と、びっくりしたのです。褐色の肌、つやつやした黒髪は、私の肌や髪とも少しちがっていました。しかも、彼らは「外国人」なのにパスタやパンは食わず、



自転車で積まれたバナナ。総重量が150kgを超えることも。

甘くない緑色のバナナやタロイモを食べていました。

その授業で学んだことは、①よく観ている番組はイギリスやアメリカが舞台であることが多いということ、②「外国＝西洋」ではないということ、③日本とも西洋ともちがう文化をもつ国があることです。その日から、地図帳で世界の国旗を調べて、ノートに描くようになりました。バングラデシュやパラオの国旗を描きながら、「なんで日本と色ちがいなんだろう。」と気になり、国旗に込められた思いも調べるようになりました。知っている世界が広がるとともに、社会科も好きになりました。

《《《《《中略》》》》》

君は、生まれる国や場所、時代を選べたかい？ (31歳)

ルワンダを語る上で欠かせないのは29年前に起こったルワンダ大虐殺です。1994年4～7月にかけて、当時の人口(約750万人)のうち、50～80万人以上が死亡、約200万人が難民化したと言われています。短期間であまりに多くの命が失われたこと、被害者も加害者も自国民であることが世界に衝撃を与えました。虐殺後、被害者も加害者が混在する「生き残った人の国」となったルワンダでは、「虐殺を忘れない(kwibuka)」「忘れないが、許し、和解しよう」をスローガンに、新たな国づくりを進めています。

先日、徳島から来てくれた友人と一緒に、キガリ虐殺博物館を訪問した際に、ガイドのMauriceさんが見出しの一言を問うてきました。Noと答え、「この博物館に眠っている犠牲者も、君と同じだよ。(博物館は、遺族のための霊園としての役割も果たしている)」と言われました。私は1992年生まれです。もし生まれた国がルワンダだったなら、私はここで眠っていたかもしれない。そんなちがいがあっていいのかと苦しくなりました。



キガリ虐殺博物館モニュメント

過去と他者は変えられないけれど、未来と自分を変えられるから。(31歳)



実験室で自主的に勉強する生徒たち

協力隊に参加して、自分とは全然ちがうけど、「こんな風に考えられたら、今日一日がもっと楽しくなりそう。」という素敵な考えをもつ人にたくさん出会いました。先日、そのうちの一人の方に「あまりくよくよしているところを見たことがないのですが、悩むことってありますか。」と尋ねてみました。即答で「悩み、ないですね。」と返されました。理由を聞くと、見出しの一言。Mauriceさんの話と繋がって、「じゃあ、これから何をすればいいのか・何をしないのかを考えて、行動してみればいいんだ。」と思えるようになりました。

「あの時のひとこと」、いかがでしたか？読んでいただき、ありがとうございました。いつかあなたの「ひとこと」もお聞きする機会があれば、嬉しいです。旧徳中・城南高等学校同窓会でお待ちしています。

ひとりにひとつの命。心も体も健やかに、一度しか来ない今日を楽しんでください！城南健児に幸あれ！

2023年度 渦の音クラブ（関東支部）の活動報告

渦の音クラブ（関東支部）は、関東在住の旧制徳島中学校と城南高校卒業生の相互の交流と、母校の支援を目的として活動しています。2023年度（令和5年度）は、「2023年度・第48回渦の音クラブの集い（総会・交流会）」を10月15日（日）の午後、東京駅前のアイリッシュパブで開催しました。校長先生は近畿支部に、酒池同窓会長が関東支部にご参加いただきました。また、徳島県東京本部が、高校同窓会関東支部との連携強化を図っており、初めて卒業生でない勝川本部長にも参加いただきました。今年の講演会は、「神山まるごと高専を語る一創設に関わった城南OBの想い」をテーマに、建築担当の吉田周一郎さん（昭和62年卒）、運営アドバイザーの村上直子さん（平成5年卒）の対談をベースに、幹事の三村（阿部）美寿穂さん（平成5年卒）の司会進行のもと、神山まるごと高専への想いや今後の展望などを語っていただきました。起業家教育として国内外から注目を集める学校づくりについて、貴重な話をお聞きできました。質疑応答では、神山町出身の卒業生から、地元住民との交流などに対する質疑も行われました。今年はカジュアルなお店での交流会になり、従来のホテルニューオータニとは違うフレンドリーな雰囲気での交流会となりました。平成年代の卒業生も多数参加しており、引き続き関東在住の若手卒業生の方の参加を促す

など、ご協力をお願いします。

「2024年度・第49回渦の音クラブの集い（総会・交流会）」は、幹事学年の平成6年卒業生を中心に、11月頃の開催で計画中です。決まりましたら、関東在住の皆さんにはご連絡いたしますので、是非ともご参加をよろしくをお願いします。

渦の音クラブ事務局 三橋浩志（昭和59年卒）



近畿支部（城南FS会） 校友の風

時が経つのは早いもので、卒業してから数多くの季節が流れ去りました。しかし、私たちの心の中で高校時代の思い出は今も鮮やかに生き続けています。この会報誌を通じて、皆さん一人一人が過去を振り返り、再び繋がる機会を持つたらいと思ひ会報誌を書いております。

昨年2023年7月、城南高校同窓会近畿支部（城南FS会）は設立からちょうど50周年を迎え、10月15日（日）大阪市内新阪急ホテルで近畿支部設立記念を祝いました。

50周年記念という事もありいつも以上に非常に盛り上がり懇親を深めました。

今回は基調講演という形で同高卒業生の糸田川氏と池北氏より講演いただきました。

糸田川氏からは、「線状降水帯降雨はなぜ怖いか」をテーマにお話しいただき非常に勉強になりました。通常の雨とは違い、降雨範囲が非常に狭く集中的に大雨になる特性があるため河川氾濫のリスクが非常に高い事や、線状降水帯の発生や移動は予測が難しく突発的な豪雨になる事等、自分の身を守るためにも非常に有意義なお話を聴かせていただきました。池北氏からは「チェルノブイリ原子力発電所及び30キロ回避ゾーン内の視察」をテーマにお話しいただきました。

チェルノブイリ原発事故は今から約40年前の1986年4月26日に、原子力発電所の設計欠陥と人的ミスが重なり史上最悪の事故が発生しました。今後300年間はその土地に人が住む事はできないと言われております。そんな過酷な場所を視察された池北氏の大変貴重な体験レポートを、動画を交えながらお話しいただきました。

廃墟となった街や遊園地の跡など現地は当時から時間が止まっておりなんとも言い難い気持ちになりました。

お二人の大変有意義なお話を聞き、最後は近畿支部の恒例となっている大阪天水連による阿波踊りを皆で楽しみました。

いつ見ても大阪天水連の阿波踊りに圧巻され、参加者全員が見惚れてしまうそんな素晴らしい阿波踊りを披露していただきました。

私からは、皆さん城南高校卒業生として伝統を受け継ぎ立派に社会を支えている。こうした皆さんと共に有意義な軌跡を創っていきたくと挨拶させていただきました。

昨今、時代の流れが非常に早くなったと感じております。人々の志向やニーズ、多様な個性など日々目まぐるしく変化していると実感しております。

そんな時代においても城南高校の伝統然り、古き良き日本の伝統を次の世代へしっかりと伝えていく事が城南同窓会としての責務であると感じております。

次回の近畿支部の総会は2024年10月19日に大阪市の中央電気倶楽部にて開催予定です。まだ参加した事のない方はぜひ一度参加してみてください。たくさんの同窓生と交流を持つ楽しみ喜びを体験いただけたと思います。

城南FS会 武田邦雄（平成13年卒）



「後援会活動（令和5年度実績・令和6年度計画等）について」

後援会長 大和 史郎（昭和56年卒）



旧徳中・城南高等学校同窓会の皆さまにおかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。また、日頃より後援会活動に格別のご理解、ご支援をいただき、ありがとうございます。

お陰をもちまして、これまで母校の教育の充実や部活動の下支えに、たいへん有意義な支援を実施することができ、心から感謝申し上げます。

後援会の令和5年度支援事業につきましては、①城南祭（ファイヤーストーム）のぼり旗（高さ3mのぼり2枚、手旗20枚）②体育館用吊り下げ式大型スクリーン一式を寄贈することとし、令和6年3月22日に学校へ目録を贈呈いたしました。支援金額は約54万円です。

一方、後援会への会費寄付金の納入については、個人49名から57万5千円、団体として阿波銀行様、徳島県庁様、徳島大正銀行様、日亜化学工業様、徳島新聞社様の5支部から計49万3千円のご協力をいただき、合計で106万8千円のご入金をいただきました。この誌面をお借りし、厚くお礼を申し上げます。

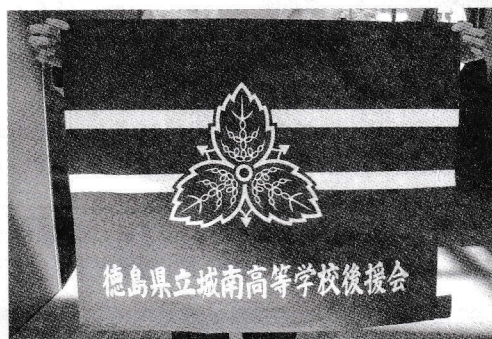
さて、来たる令和7年に、我が母校は創立150周年という大きな節目を迎えることとなり、すでにその記念事業に向けた実行委員会がスタートいたしました。150周年記念事業が母校の歴史と伝統を支えに、現在そして未来の城南生の夢をサポートするものとなるよう、後援会としても、実行委員会と一緒に精一杯の活動をしていきたいと思っています。同窓生の皆さまには、本年度の後援会活動に、なお一層のご理解・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和5年度 後援会活動 について

令和6年3月22日
目録贈呈

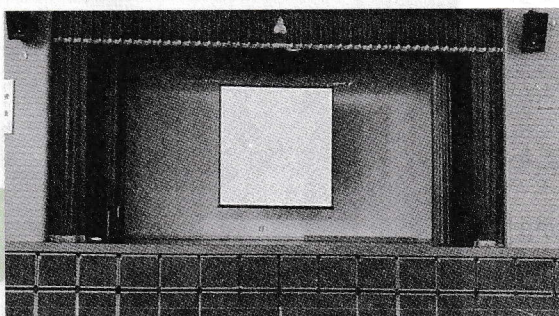


城南祭（ファイヤーストーム）
のぼり旗2枚



城南祭（ファイヤーストーム）
手旗20枚

体育館吊り下げ式
大型スクリーン一式



◇後援会ホームページURL◇
(同窓会のホームページと共用)

<https://sites.google.com/view/jonan-ob>

◇ 会費等振込先 ◇

会費は 一口 5,000円 (何口でも可)

口座名はいずれも「城南高等学校後援会」

金融機関名	店番号	口座	口座番号
阿波銀行本店	100	普通	1192723
徳島大正銀行本店	001	普通	7815411
		口座 記号 番号	
		(ゆうちょ銀行)	01680・2・60805

おめでとうございます

令和4年 秋の叙勲 受章者

瑞宝双光章

玉野 一郎氏 (62) (昭和55年卒)

元3等海佐=防衛功劳

令和5年 秋の叙勲 受章者

瑞宝中綬章

赤松 則男氏 (80) (昭和37年卒)

徳島大学名誉教授=教育研究功劳

里見光一郎氏 (75) (昭和42年卒)

元副知事=地方自治功劳

瑞宝双光章

井上 京子氏 (72) (昭和43年卒)

元公立小学校長=教育功劳

西野 賢一氏 (76) (昭和40年卒)

元京都地方法務局次長=法務行政事務功劳

瑞宝单光章

上田 幸利氏 (72) (昭和55年卒)

元徳島市消防指令=消防功劳

令和6年 春の叙勲 受章者

瑞宝中綬章

木内 陽介氏 (80) (昭和37年卒)

徳島大学名誉教授=教育研究功劳

賀勢 晋司氏 (81) (昭和36年卒)

徳島大学名誉教授=教育研究功劳

三間 園興氏 (78) (昭和39年卒)

大阪大学名誉教授=教育研究功劳

瑞宝小綬章

石堂 真道氏 (71) (昭和46年卒)

元公立高等学校長=教育功劳

乾 和雄氏 (73) (昭和44年卒)

徳島県保健福祉部長=地方自治功劳

紀本 明宏氏 (72) (昭和45年卒)

元国際統計管理官=総務省行政事務功劳

北村 洋氏 (81) (昭和36年卒)

神戸市立工業高等専門学校名誉教授=教育研究功劳

瑞宝双光章

石井 博氏 (73) (昭和45年卒)

元公立中学校校長=教育功劳

渡邊 優氏 (72) (昭和45年卒)

元徳島労働基準監督署長=厚生労働行政事務功劳

(年齢は受章当時)

『同窓会事務局からのお知らせ』



旧徳中・城南高等学校創立150周年に向けて

来年（令和7年）に創立150周年を迎える母校。

いよいよ創立150周年記念事業実行委員会が立ち上がりました。委員長に酒池同窓会会長が就任され、学校を中心として、同窓会、後援会、松柏会が一丸となり進めております。

明治、大正、昭和、平成、そして令和へと時代は移り、150周年は令和初の周年記念となります。歴史は時代とともに変化しています。150周年という記念すべきひとつの大きな区切りが、200周年、300周年と、これからも引き継がれていく歴史の中で、先輩方が築いた歴史を今、そしてこれからの城南生がどんどん進化させてくれると信じています。

150周年記念事業を進めるにあたり、今後様々な角度から同窓生のみなさまにはご支援をいただくことと存じます。どうぞご理解ご協力をいただきますよう心よりお願い申し上げます。

150年の歩み

1875（明治8）年12月2日名東県徳島師範学校附属として変則中学校の設立が許可されました。これが前身徳島中学校及び現城南高等学校のルーツであり、徳島県の中朝教育のはじまりだと理解されています。

1949（昭和24）年高等学校再編成により、徳島県城南高等学校が創設され、その後徳島県立城南高等学校に改称されました。

平成に入ってから城南高校はさらに進化を遂げ、2003（平成15）年には、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定校となりました。未来を担う科学技術系人材を育てることを目的とした理数系教育の充実を図る取り組みを受け、2006（平成18）年4月に応用数理科の1期生が入学しました。そして、1972（昭和47）年度から導入された総合選抜制は、2004（平成16）年度から廃止となり、入試制度の改革がなされました。

2008（平成20）年新校舎が完成し、2010（平成22）年に校舎落成記念式典が行われました。80周年記念館、100周年記念会館については、耐震構造に問題があるとして取り壊すことになったようですが、そこに至るまでの話し合いは、当時の寄付金集めから始まり、会館建設の苦勞、母校や会館への強い愛着があり、同意を得るまでに大変だったと記録が残っています。

2004（平成16）年プールについても往年の水泳部OBから惜しまれましたが、解体されたようです。

2007（平成19）年度の入学生より、男女ともダークグレーのブレザーに格子柄のズボンやスカート、そしてネクタイを採用したものに制服が一新されました。

2011（平成23）年3月には、選抜高校野球大会に創部113年にして21世紀枠で甲子園に初出場したことは、記憶に新しいと思いますが、今や城南高校は運動部文化部ともに全国大会に出場し、素晴らしい成果をあげています。

2024（令和6）年は、2020（令和2）年2月新型コロナウイルス感染拡大のため一斉休校、様々な行事を中止し、オンライン授業を経てようやく日常を取り戻しています。

同窓会ホームページをご覧いただいていますか

昨年ホームページをリニューアルさせていただきました。おかげさまで、多くの同窓生の皆さまから激励のお言葉をいただいております。

徳島在住の方だけでなく、郷里を離れてお越しの同窓生の皆さまにも、母校の今をお届けするため、これからも更新し続けていきたいと思っております。

是非ご覧ください。

また同窓生に関する素敵な情報がありましたら、どうか同窓会宛にご連絡ください。お待ちしております。

「城南高校 同窓会」または「県立城南高等学校ホームページ内リンク」でご覧いただけます。

URL : <https://sites.google.com/view/jonan-ob>

mail : jonan.dousoukai@gmail.com



同窓会報は 皆さまからのご支援により支えられています

この同窓会会報の発行は、普段顔を合わすことのない同窓生親睦のための会報です。

同窓生の寄稿文を読むたび、母校を懐かしみ、また卒業生であることの誇りを感じる方も多くいらっしゃると思います。

まもなく100号を迎える歴史ある会報を今後も継続させるために、皆さまからのご支援を重ねてお願い申し上げます。

支援金は、同封の振込用紙をご利用ください。コンビニからも振り込みは可能です。

どうぞよろしくご支援申し上げます。

旧徳中・城南高校同窓会ゴルフコンペ 第14回「渦の音カップ」のご案内

日 時：令和6年10月13日（日曜） AM8：32スタート
 場 所：サンピアゴルフ倶楽部
 費 用：プレー費 ￥13,780（税込、食事別）、参加費 ￥3,000
 幹 事：昭60年卒 新田広城 090-7621-3046
 呼びかけ人：昭37年卒 森壮太郎
 お申込み：各学年幹事へ別途ご案内を差し上げます

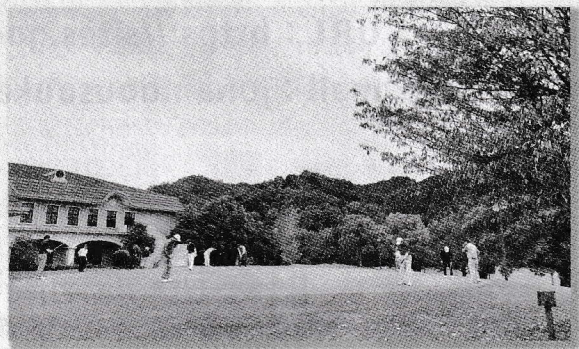
新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、3年間中止になっておりました渦の音カップゴルフコンペですが、昨年度より無事に再開することができました。

総勢95名の参加により、学年対抗の団体戦は昭和49年卒チームが優勝を獲得しました。そして、個人戦は、団体戦優勝メンバーでもある昭和49年卒の斎藤陽一さんが見事優勝を勝ち取りました。

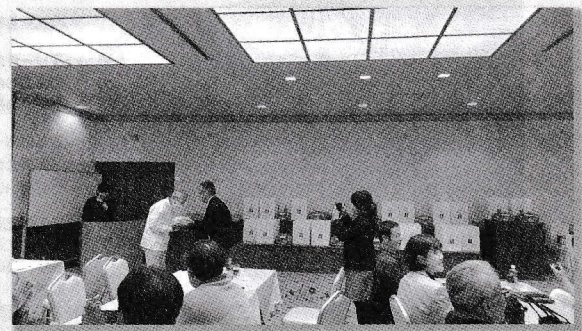
またこのコンペの呼びかけ人でもある森壮太郎さんは、76という好スコアでエイジシュートを達成し、昭和41年卒の荒瀬誠治さんは、ホールインワンを達成し、記念品とともに表彰させていただきました。

そんな盛り上がりもあった昨年度のゴルフコンペですが、今年も上記の要領にて開催したいと存じます。

つきましては、同窓生の親睦と絆を一層深めるべく、多数の皆さまが城南富士に集い、素敵な一日を送っていただきたくご案内申し上げます。



幹事代表 新田広城（昭和60年卒）



事務局の案内

同窓会などのお問い合わせは、下記の各事務局までお願いします。
同窓会・後援会ホームページもご活用ください。

旧徳中・城南高等学校同窓会事務局

〒770-8064
徳島市城南町2丁目2-88 城南高校内
綱島 久美子(昭和55年卒)
☎ 088-652-0084 ☎ 088-656-0484
Mail jonan.dousoukai@gmail.com
HP <https://sites.google.com/view/jonan-ob>

渦の音クラブ(関東支部)事務局

〒112-0001
東京都文京区白山4丁目24-17
三橋 浩志(昭和59年卒)
Mail info@uzunooto.jp
HP <http://uzunooto.jp>



日々の活動はフェイスブックでも発信中
「渦の音クラブ」に「いいね」をよろしく

城南FS会(近畿支部)事務局

〒665-0845
宝塚市栄町3-1-11-903
事務取扱は下記まで
〒771-2501
徳島県三好郡東みよし町昼間573-2
糸田川 廣志(昭和42年卒)
☎ 0883-79-3270
Mail hiro4823ito@yahoo.co.jp